

ヤンボラスタッフ被災地へ

ヤンボラ新聞

ヤングボランティアセンター

No. 6

平成25年3月22日発行

松山市堀之内
愛媛県美術館南館内

TEL・FAX
089-932-0160

メールアドレス
youngvolehime07@yahoo.co.jp

宮城県七ヶ浜町で交流

平成24年8月、愛媛大学附属高校、松山西中等教育学校、松山東高校、松山中央高校の高校2、3年生15人が仮設住宅の集会所や児童館でボランティア活動を行い、被災者と交流を深めた。

出発までの準備と事前講座

今回の復興支援活動を少しでも良いものにするため、多くの方にご指導とご協力をいただき、活動準備に取り組んだ。

ヤンボラでは、被災地復興支援活動として、23年に福音公園への応援メッセージパネルの設置、「東日本大震災復興支援を考える高校生講座」の実施、被災地からの修学旅行生との交流等、まずは県内でできることに力を入れて取り組んだ。その経験を踏まえて、24年度は被災地での直接的な支援を新たな目標に設定した。そして被災地の人々の笑顔を取り戻す一助となるよう、高校生のアイデアを活かしたプレゼントを作成して手渡すことと、仮設住宅の集会所や児童館でのボランティア活動を行うことを決めた。



準備ミーティングの様子



事前講座でプログラムを学習

今回の復興支援活動の実施が決定してから出発の日まであまり時間がなく、さらに高校も違うため、全員が集まる機会が少ない中での準備だったが、何とか出発にこぎ着けることができた。



ミニハンカチ (デザイン)

自分の目で被災地の様子を知る

ボランティアセンターから海に近づくことと自然に折れまがった木々、標識が並んでいた。海から陸へとなぎ倒されたそれらは津波の威力の強さを物語っていた。私たちの頭上よりもはるかに高いガソリンスタンドの屋根。その屋根まで



陸へ向かって折れている標識

仮設住宅と児童館を計6か所訪問

片道20時間のバスの中でも練習を重ね、ようやく宮城県七ヶ浜町へ到着し、2つのグループに分かれて活動した。1日目は仮設住宅を訪問した。ここでは、ま



屋根が崩れているGS

もが津波の被害を受けていた。当時の光景を想像すると津波を見たことがない私でも恐怖を感じた。海が見えた。足元には家を支えていただろう基礎のコンクリートの鉄筋がむき出しになっていた。ふと大きな塊が立っているのに気付いた。対の門構えだった。表札がついているのを見たとき、「ここには



基礎だけが残る沿岸部

人が住んでいたのだ。」あたり前のことがやっと分かって泣きそうになった。頭の中で通りを再現してみる。そうして、もう一度眼前に広がる海を見て、ここから海が見えてはいけないのだと分かった。被災者が感じた恐怖は消せない。しかし、同時に私たちはこの記憶を消してはいけな



デザイン 松山東高2年 豊田 真琴さん

クリアファイル (デザイン)

訪問した。ここでは、まに楽しんでもらえる活動を考えて。また、活動の最後に、松山市の「こ」との力をイベントから生まれた『この街で』を歌うことが決まった。そして活動内容が決まった後は、出発に向けて活動や歌の練習を重ね、より良いものに仕上げていった。



ボランティア全員のミーティングに参加

「仲良しの証のミサンガ」をプレゼントしてくれた。当時、足をケガしていた私に、「早く足が治りますように。」と願いをかけ、結んでくれた時には思わず涙がこぼれそうになった。多くのことを感じ、心の成長を実感した活動となった。

もう一方のグループは、小学生と高校生スタッフでパターゴルフ、ボール遊びなど屋内外でレクリエーション活動をした。小学生たちは元気一杯で、すぐ仲良くなることができた。高校生スタッフも小学生に負けずに、暑い中で思いきり体を動かした。スタッフ



児童館での活動の様子

参加したヤンボラスタッフの感想

ミーティングでこの日にすることをいくつも計画していたが、小学生のおすすめの遊びを時間いっぱいすることとなった。お昼には、流しすうめんとかかすおむすびをいただいた。東北とはいえ、やはり夏の陽射しは厳しく、冷たいそうめんはおいしく、そして美しく感じられた。帰り際の「また来てね。」という嬉しい言葉と、一日中見せてくれた輝くような笑顔が胸に刻まれた。

今回の被災地での復興支援活動を通じて、被災地の現状を知ることができた。また現地の人と交流することで、笑顔を届けることができた。宮城までの道のりは長かったが、その疲れを感じさせないほど、今回の活動はとて有意味なものであった。再び被災地へ行き、またボランティアに参加したいと強く思った。

松山西中等教育学校
6年 渡部 英里



愛媛県イメージアップキャラクター みきゃん

堀江公民館通学合宿

平成24年10月17日〜20日の4日間、松山市の堀江公民館において堀江小学校の4〜6年生合わせて26人が通学合宿にチャレンジし、大学生スタッフ17人が指導、サポートした。

「友だちとの共同生活の中で、自分を大きく成長させよう！」のテーマのもと、堀江公民館通学合宿が行われた。通学合宿に初めて参加する児童も多かったが、友達や上級生、下級生とのつながりを通して、様々なことを学んだ充実した4日間となった。

食事は、材料の買い出しから片付けまで小学生が行った。自分たちが購入したものを調理し食べるという「自分たちで全部できた」経験は、普段の何気ない食事や食材に向けることにつながる素晴らしい機会となった。

夕食後は、その日の宿題を時間いっぱい一生懸命頑張る、上級生が下級生に教えてあげたりするほほえましい姿も見られた。ふれあいタイムでは、大学生スタッフが準備したゲームにペアごと、班ごとで体を動かして参加することを通して、班の団結力や絆も深まっていた。



全員で調理をする小学生

スタッフの感想

スタッフが印象的だった。わずか4日間だったが、苦手な梅干が食べられるようになった、蝶々結びができるようになった、宿題の新聞づくりを朝5時に起きて完成させたなど、子どもたちが成長する姿がたくさん見ることができた。

通学合宿は学校、地域、保護者など多くの人に支えられていました。毎日の調理では、食生活改善の方や愛風会の方の支援があったからこその成り立ちです。また、最終日のパーベキューも私たちが公園に到着するまで用意がされていました。堀江には訪れたことがなかったのですが、先生方や地域の方々の子どもたちへの愛をたくさん知ることができ、とても好きになりました。多くの経験をすることができ、とても充実した4日間となりました。

愛媛大学教育学部
4年生 田玄 彩佳



福音公園づくりボランティア

明るい安全な公園を目指して

国道11号線小坂交差点高架下にある福音公園（松山市）で、平成24年3月31日、壁画アート作品の公開と新施設オープニングイベントが行われた。

「少し暗い高架下の公園を明るくしよう」という目標のもと、ヤンボラの高校生がアイデアを出し、壁画アート作品や園名板の設置、イベントの実施を行った。プロジェクトでは、ワークシヨップが2回行われた。1回目では、アート作品

の設置と共に、ストライクアウトやバスケットボールのオープンに向けてイベントを開くことが決まった。2回目では、感謝のメッセージを集めた「ありがとうの樹」の制作と、地域の人たちの協力による昔遊びの計画が決まった。



完成した「ありがとうの樹」



オープニングイベントの様子

イベント当日、福音公園は多くの子もたちとその家族で賑わい、高校生が担当した福笑いや綿菓子も大人気だった。3か月かけて準備した結果が楽しいイベントになり、高校生スタッフも大きな充実感を得た活動となった。

シャッターボランティア

松山城などの観光地で観光客の方のカメラマウントとなるシャッターボランティアを行った。シャッターを押す度に、互いの笑顔が見られたり、会話を交わすことができたり、たくさんの人たち

とコミュニケーションをとることのできる良い機会となった。また、松山城では甲冑の着付けを行った。実際に甲冑を身に付ける機会はないので、観光客の方には大いに喜んでいただ

いた。「私たちの撮った写真が愛媛でのよい思い出となればいいな。」という思いを大切に、これからも活動を続けていきたい。



松山城天守閣をバックに撮影



甲冑の着付けの様子



今治来島海峡展望館前

南予いやし博

献血の呼びかけ

南予いやし博では、県外からの来訪者や家族連れの方がとても多く、幅広い年齢の方と触れ合う貴重な時間を過ごすことができました。ボランティアの現場では、幼児からお年寄りの方まで、それぞれの年齢層にあった言葉遣いや、説明の仕方をする必要があります。戸惑うことも多かったが、改めてコミュニケーションの大切さに気付くことができました。



伊達政宗モデルの甲冑で撮影

また、私たちが普段過ごしている空間や出会う人が、どれほど限られているのかということを感じました。相手に見返りを求めず無償で行うボランティア活動は、人として大きく自分を成長させることができ、将来の大きな糧となるだろう。それに、何よりも宇和島という自然豊かな自分たちの街を多くの人に知ってもらえたことが嬉しかった。



宇和島の高校生も頑張ったにゃん！



献血呼びかけボランティアでは多くの方に協力いただいた。活動に参加した中本夢香里さん（松山中央）は、「感謝の気持ちを持つと共に、今後も血液を必要とする厳しい医療現場へ思いやりを届けるかけ橋になりたいと思います。」と話した。ヤンボラではこれからも献血への協力を続けていきたい。



大街道献血ルーム前での呼びかけ



持ち方を練習する高校生

クリスマス会に参加

12月15日にクリスマス会に参加し、レクリエーション協会の先生方と共に6つのゲームの補助をした。パルーンの作りや大玉送りでは小学生の歓声が広がった。



パルーンの帽子で記念撮影

読み聞かせ講習会

「おはなし☆グミ」の丸山康子先生に、本の持ち方、声の出し方、読む時の表情など多くの指導をいただいた。子どもたちをいかに絵本の世界へ引き込んであげるか難しさがある反面、子どもたちの目の輝きや喜ぶ様子が励みになり、少しでも力になればと感じた。今後も笑顔が増えるよう私たちも努力を続けていきたい。

- 「おはなし☆グミ」の丸山康子先生に、本の持ち方、声の出し方、読む時の表情など多くの指導をいただいた。子どもたちをいかに絵本の世界へ引き込んであげるか難しさがある反面、子どもたちの目の輝きや喜ぶ様子が励みになり、少しでも力になればと感じた。今後も笑顔が増えるよう私たちも努力を続けていきたい。
- ・ふるさとを愛する風の会
 - ・松山市食生活改善推進協議会堀江支部
 - ・福音公園を考える会
 - ・松山市立福音小学校
 - ・愛媛県立図書館ボランティアグループ「おはなし☆グミ」
 - ・えひめ紙芝居おはなし学会
 - ・伊予鉄道株式会社鉄道部
 - ・松山城総合事務所
 - ・今治市産業部観光課
 - ・来島海峡展望館
 - ・愛媛県赤十字血液センター
 - ・大街道献血ルーム
 - ・愛媛県立みなら特別支援学校PTA
 - ・余戸南弘川地区第一町内会・子ども会
 - ・八幡浜元気プロジェクト
 - ・愛媛県ユニセフ協会
 - ・松山市ボランティアセンター

編集後記

今年度は念願だった被災地でのボランティア活動が実現しました。「復興は進んでいないが、風化は確実に進んでいる。」という被災地の方の思いを受け止め、これからも私たちにできることを続けていきたいと思っています。ヤンボラの知名度も上がり、ボランティア活動の依頼を受けることも増えてきました。これからも楽しいボランティアの輪を広げていきたいと思っております。ご協力とご支援をよろしくお願い致します。

《新聞作成スタッフ》

- 武知 颯（愛大附属）
- 末吉藍弥悠（愛大附属）
- 村上 優斗（愛大附属）
- 井上 彩華（愛大附属）
- 森河 佳帆（愛大附属）
- 豊田 真琴（松山東）
- 尾脇 優菜（松山北）
- 中本夢香里（松山中央）
- 田村 美樹（宇和島南）
- 川崎 悠（愛媛大学）
- 田玄 彩佳（愛媛大学）

ヤングボランティア スタッフ募集!!

〒790-0007 松山市堀之内 愛媛県美術館南館内
Tel・Fax : 089-932-0160
Mail : youngvol@hime07@yahoo.co.jp

くわしくはホームページをご覧ください

